

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートチャイルドケアSEDスクール奈良香芝			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 15日		～	2025年 10月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数)	42
○従業者評価実施期間	2025年 10月 15日		～	2025年 10月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育経験が豊富な職員や保育所経験の長い職員が多いため、一人ひとりのお子様に必要な遊びや関わり方を療育の視点で見立て、療育を実施することができる。	経験の浅い職員との差が出ないよう、自由遊びの時間に職員みんなでお子様と一緒に遊ぶことでお子様の見立てや接し方などを共有して実践したり、アイデアを出し合ったりと互いに高めあっている。	チームとして研鑽を積み、より充実した療育及び保護者支援を実施していく。
2	スクール内研修や打ち合わせ、共有の時間を多くとっているため、セッションの一つひとつが発達の視点で丁寧に考え練られた遊びである。	セッション終了後すぐに、カンファレンスにて成功体験につながった経緯や見えてきた課題を共有し、次のセッションに向けてのねらいを明確にしている。	感覚調整遊具を使った遊びや粗大・微細運動により、体幹や運動面はもちろん対人の意識も高め、やりとりの力をつけていくために遊びを変化させながら繰り返し実践していく。
3	セッションごとのフィードバックに加え、ペアレントトレーニングや発達についての保護者向け研修会、お茶会、就学をテーマとした保護者懇談会といった保護者支援を実施している。	『悩み立ち止まることが多いからこそ、我が子の発達のことで相談ができる友だちが欲しい、先生や先輩方に教えてもらいたい』というたくさんの声を受けて開催しています。	より内容を精査し充実させていく予定。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりが不十分	地域のイベントに参加したり、地域の方を招待したりといった取り組みについては、業務との調整をつけることができていない。	利用者様のきょうだい児については事業所内で遊ぶ機会があり保護者様とも相談を含めてお話をするが、利用者様以外の方については情報収集から始める必要がある。
2	スクールが2階にあるので、バリアフリーではない	構造上バリアフリーにすることは難しいが、片足ずつ上ることや手すりを持つこと、保護者様と手をつなぐこと等が身につき場として療育に生かしている。	必ず指導員が付き添い、安全にご利用いただけるよう配慮を行っている。
3	事業所間の連携が不十分	相談支援事業所とは連絡を密にしているが、児童発達支援事業所間の連携については、保健センターなど行政との連携が必要なケースや保護者様が育児に深く悩み行き詰まりを感じるようなケース等、必要なケースのみの連携になっている。	担当者会議の開催などを働きかけていく。